

## 第2章

## 中津市の歴史文化資源の概要

## 1. 指定等文化財の概要

令和6年8月1日時点で中津市には、文化財保護法や条例に関わる指定・登録等の文化財が241件あり、内訳は国指定・選定14件、県指定47件、市指定148件、国登録29件、国選択2件、県選択1件です。

《表4：市内の指定等文化財の件数》

類型		国指定・選定	都道府県指定	市町村指定	国登録	国選択	県選択	合計	
有形文化財	建造物	3	6	42	28	—	—	79	
	美術 工 芸 品	絵画	0	1	2	0	—	—	3
		彫刻	2	6	16	0	—	—	24
		工芸品	0	4	7	0	—	—	11
		書跡・典籍	0	1	3	0	—	—	4
		古文書	0	0	9	0	—	—	9
		考古資料	0	1	2	0	—	—	3
		歴史資料	0	1	12	0	—	—	13
無形文化財	0	0	0	—	0	—	0		
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	1	5	0	—	—	7	
	無形の民俗文化財	2	5	9	—	2	1	19	
記念物	遺跡	2	13	33	0	—	—	48	
	名勝地	1	0	2	1	—	—	4	
	動物・植物・地質鉱物	3	8	6	0	—	—	17	
文化的景観		0	—	—	—	—	—	0	
伝統的建造物群		0	—	—	—	—	—	0	
合計		14	47	148	29	2	1	241	

—：法及び条例上、指定等の制度のないもの。

## (1) 指定等文化財

### ①有形文化財

古代より仏教文化が花開き、羅漢寺や薦神社など時の権力者に庇護された寺社があり、江戸時代には城下町として栄えた中津市には、各時代を代表する様々な有形文化財が伝わっています。

#### ア. 建造物

建造物は79件（国指定3件、県指6件、市指定42件、国登録28件）で、九州最古級の民家「神尾家住宅」や江戸時代初期の「薦神社神門」、国内最古級の観光道路「耶馬溪橋」が国重文に指定されています。国登録有形文化財の建造物は28件で、このうち、市の所有である「旧小幡記念図書館」は、明治4年に福澤諭吉の提言によって中津に開校した「中津市学校」の精神を受け継ぐ新たな学びの拠点として、令和元年に「新中津市学校」としてリニューアルオープンしました。大分県は日本一石橋の多い県ですが、中でも中津市は、日本最長の石橋アーチ橋「耶馬溪橋」（国重文）をはじめ、長さ日本3位の羅漢寺橋（県有文）・4位の馬溪橋（県有文）など、一級河川山国川に長さを競う石橋が集中しているのが特徴です。

#### イ. 美術工芸品

絵画は3件（県指定1件、市指定2件）で、「薦社縁起絵」（県有文）は宇佐八幡宮の祖宮である「薦神社」（県史跡）や宇佐宮及び関連する神社の様子がわかることから、歴史資料としても重要な作品です。

彫刻は24件（国指定2件、県指定6件、市指定16件）で、白鳳期の長谷寺「銅造観音菩薩立像」（国重文）をはじめ、久福寺「木造大日如来坐像」（県有文）などの平安仏、南北朝時代の「羅漢寺石仏」（国重文）をはじめ、優品が伝えられています。

工芸品は11件（県指定4件、市指定7件）で、「新宮権現社懸仏」（県有文）は鎌倉後期～南北朝期と古く、同神社の「新宮権現社鱧口」（県有文）には県内で2番目に古い応永35（1428）年銘が刻まれています。

書跡・典籍は4件（県指定1件、市指定3件）で、そのうち、江戸時代の文人画家である池大雅が逗留した自性寺には46点の遺墨「池大雅筆障壁書画」（県有文）が残されています。典籍は本耶馬溪町の「雲西寺の経堂経典」（市有文）の1点のみとなっています。

古文書は9件（市指定9件）で、鎌倉時代から明治時代までの古文書類のうち、「中津祇園会記録」（市有形）は享保14（1729）年より200年余りにわたり書き継がれた中津祇園会の記録です。城下町の町民の手による貴重な資料となっています。

考古資料は3件（県指定1件、市指定2件）のみですが、中世の「深水家遺跡出土遺物」（県有文）の一括遺物や九州では珍しい写実的な「土偶2体」（市有文）など県内でも特徴的な貴重な遺物が指定されています。

歴史資料は13件（県指定1件、市指定12件）で、江戸時代の町会所の記録「惣町大帳及び市令録」（県有文）のほか、「蘭語訳撰」（市有文）をはじめとした医家史料が多く指定されています。

### ②無形文化財

指定された無形文化財はありません。

### ③民俗文化財

#### ア. 有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は7件（国指定1件、県指定1件、市指定5件）です。日本最古の操り人形とされる古要神社の「傀儡子」（国有民）の相撲人形60体は、傀儡子の舞の保存団体により大切に保管されています。



写15：古要神社の「傀儡子」

#### イ. 無形の民俗文化財

無形の民俗文化財は19件（国指定2件、県指定5件、市指定9件、国選択2件、県選択1件）です。そのうち、「古要神社の傀儡子の舞と相撲」（国無民）は3年に一度催されますが、さらに傀儡子は「傀儡子の舞及び相撲」と「古要神社の傀儡子」が民俗芸能の部で、国の選択無形民俗文化財となっています。また、中世から続く「豊前神楽」が国指定無形民俗文化財に、夏を彩る「中津祇園」「鶴市傘鉾神事」、秋に耶馬溪の谷で催されるカッパ祭り「宮園楽」、春の訪れを告げる「北原人形芝居」「桧原マツ」などが県指定無形民俗文化財となっています。四季折々の祭りは市民の生きる支えとなり、人々の目を楽しませています。



写16：豊前神楽



写17：中津祇園



写18：鶴市傘鉾神事



写19：桧原マツ



写20：宮園楽



写21：北原人形芝居

### ④記念物

#### ア. 遺跡

史跡は48件（国指定2件、県指定13件、市指定33件）で、発掘調査で確認された遺跡の他、地表面に築かれている石垣や寺院の礎石、池などもあります。国指定史跡は、中津が誇る偉人福澤諭吉が幼少年期を過ごした「福沢諭吉旧居」と、下毛郡衛正倉跡に比定される「長者屋敷官衙遺跡」の2件です。県指定史跡には「植野貝塚」や「法垣遺跡」、「粉洞穴」などの縄文遺跡、「相原山首遺跡」や「相原廃寺付塔心礎」などの古代の遺跡の他、「三角池と薦神社」のような寺社境内地もあります。また、市内全域に分布する中近世城館にも県や市の指定となっているものが多くあります。

## イ. 名勝地

名勝は4件(国指定1件、市指定2件、国登録1件)で3市2町(中津市・宇佐市・日田市・玖珠町・九重町)にまたがる国指定名勝「耶馬溪」は、66景のうち49景が中津市内にあり、市域の広大な範囲に分布します。他に、「雪舟庭」(市名勝)や、「平田氏庭園」(国登録名)など地元の名士の庭園が所在しています。



写22：雪舟庭



写23：平田氏庭園

## ウ. 動物・植物・地質鉱物

天然記念物は17件(国指定3件、県指定8件、市指定6件)です。特にダイナミックな自然景観が残る耶馬溪には、貴重な植物・地質鉱物が認められます。

動物では、「ベッコウトンボ」(市天然)1件です。環境省と大分県の絶滅危惧種ⅠA類で、県内では中津市の「野依新池」と、隣接する宇佐市の植野池で安定的に生息しています。

植物は14件で、「犬ヶ岳ツクシシャクナゲ自生地」(国天然)や「キシツツジ」(県天然)などが奇岩の溪谷耶馬溪の景色を彩ります。また、檜原山の「千本カツラ」(県天然)や「長谷寺境内林」(県天然)など、寺社境内にも貴重な植生が認められます。

地質鉱物は2件で、「耶馬溪猿飛の甌穴群」(国天然)と「鷹巣山」(国天然)のような奇岩が耶馬溪独特の景観を作り出しています。



写24：犬ヶ岳のツクシシャクナゲ



写25：キシツツジ

## ⑤文化的景観

選定された文化的景観はありません。

## ⑥伝統的建造物群

選定された伝統的建造物群はありません。

## ⑦選定保存技術

選定された保存技術はありません。

### (2) 埋蔵文化財

遺跡は、338件が周知されています。集落跡が76か所と最も多く、散布地・城館跡は74か所、墳墓は57か所、生産遺跡は24か所を数えます。集落跡は、発掘調査により縄文時代から中世の各時代を通して出土します。縄文時代の集落遺跡の多くは川沿いの高台や自然堤防上にあり、「高畑遺跡」(県史跡)、「法垣遺跡」(県史跡)などが所在します。中津市は平地城館から山城まで、市内全域に城館跡が分布していますが、近年行った把握調査により、新たに多くの城館跡が確認されました。墳墓の多くは古墳時代の横穴墓が多く、埋葬時の血族関係が判明した「上ノ原横穴墓群」<sup>うえのはる</sup>などが丘陵斜面に造られています。生産遺跡のうち条里跡は市内に3か所あります。特に「沖代地区条里跡」は、現存する県下最大級の条里遺跡です。近年は宅地開発の影響により往時の景観が徐々に失われつつあります。また、下毛郡衛正倉しもげぐんがしょうそうに比定される「長者屋敷官衙遺跡」(国史跡)では、近年周辺部で行われた発掘調査では四面廂建物などの重要遺構が見つかっています。

### (3) 日本遺産

中津市と隣接し、かつ「耶馬溪」(国名勝)を共有する玖珠町とともに、両市町をつなぐストーリー「やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく～」を日本遺産※として申請し、平成29(2017)年4月に認定されました。

**認定ストーリーの概要** 耶馬溪とは、川が溶岩台地を侵食した奇岩の溪谷で、石柱の断崖、岩窟、滝、巨石が大パノラマをつくっています。その深く神秘的な地形は伝説と祈りの場所となり、山水画のような風景は文人画人憧れの地でもありました。1000年以上の昔から、人々は岩から仏、石橋、洞門、庭園と、優れた作品を生み出し、広大な大地に配しては回遊路でつないでいき、大正時代ついに一本の絵巻物のようにまとめあげました。次々と場面が展開する「耶馬溪」という山水絵巻に入り込み、空から、谷底から、遊覧の旅をお楽しみください。

**構成文化財** 1. 耶馬溪(国名勝) 2. 八面山と八面山探勝道(一部国名勝) 3. 羅漢寺と羅漢寺探勝道(一部国名勝) 4. 古羅漢と古羅漢探勝道(一部国名勝) 5. 青の洞門関連遺産(県史跡・市有形) 6. 競秀峰と競秀峰探勝道(一部国名勝) 7. 福澤家土地台帳(未指定) 8. 村上田長関連遺産(市史跡・未指定) 9. 一目八景と深耶馬溪探勝道(一部国名勝) 10. 森町の庭園とテーブルマウンテン(一部国名勝・国天然・一部県有形・未指定) 11. 森町の町並み(国登録有形・未指定) 12. 裏耶馬溪の景観(一部国名勝) 13. カップ祭り(県有民・市有民・未指定) 14. 耶馬溪温泉(未指定) 15. 猿飛千壺狭～魔林狭遊歩道(国天然・国名勝) 16. 平田吉胤関連遺産(国登録・未指定) 17. 平田集落の町並み(国登録・市史跡・未指定) 18. 旧耶馬溪鉄道関連遺産(国登録・未指定) 19. 筑紫亭(国登録) 20. 山国屋旅館(未指定) 21. 豊後森駅関連遺産(国登録・未指定) 22. 耶馬三橋(国重文・県有形) 23. 「天下無二耶馬全溪の交通図絵」(未指定) 24. 中津と玖珠の食(未指定) (10、11、21が玖珠町単独の構成文化財)

※日本遺産：地域の歴史的の魅力や特色を通じて、文化や伝統に基づく「ストーリー」を文化庁が認定する制度。



## 2. 未指定文化財の把握

未指定文化財については、令和3(2021)年度、4(2022)年度に把握調査を実施しました。調査結果の概要は以下の通りです。表5では、市内を旧中津市(合併前の中津市)・三光・本耶馬溪町・耶馬溪町・山国町※のエリアごとに表示しています。計上した未指定文化財の件数は、令和6(2024)年8月現在1,747件です。

※平成17年の市町村合併前の中津市のエリアを旧中津市、旧町村のエリアを現在の地名である三光・本耶馬溪町・耶馬溪町・山国町と表記した。

《表5：把握した未指定文化財の件数》(令和6(2024)年8月現在)

類型		旧中津市	三光	本耶馬溪町	耶馬溪町	山国町	合計	
有形文化財	建造物	173	33	95	100	87	488	
	美術 工芸 品	絵画	0	0	2	0	1	3
		彫刻	6	40	28	4	74	152
		工芸品	0	0	0	0	3	3
		書跡・典籍	4	1	0	1	0	6
		古文書	12	1	0	0	0	13
		考古資料	7	2	7	1	15	32
		歴史資料	1	1	1	0	11	14
無形文化財	工芸技術	4	3	3	1	3	14	
	食文化	31					31	
民俗文化財	有形の民俗文化財	5	7	9	10	67	98	
	無形の民俗文化財	41	20	11	19	15	106	
記念物	遺跡	55	11	22	16	25	129	
	名勝地	5	0	0	0	1	6	
	動物・植物	116					116	
	地質鉱物	4	2	6	10	1	23	
文化的景観		2	0	0	1	1	4	
伝統的建造物群		3	0	0	0	0	3	
埋蔵文化財		169	71	21	37	20	318	
その他の文化財	歴史的地名	9					9	
	伝承	20	12	17	73	35	157	
	歌碑	20	0	2	0	0	22	
合 計							1,747	

## (1) 未指定文化財の概要

### ①有形文化財

未指定文化財の調査では、有形文化財を711件把握しています。

#### ア. 建造物

建造物は488件で、石造物、記念碑、石橋、木造建造物等を含みます。石塔が半数以上を占めており、そのうち石橋は72件が未指定です。木造建造物の大半は古民家で、旧中津市に集中していることは城下町の特徴を表しています。

#### イ. 美術工芸品

絵画は2件で、本耶馬溪町の寺院の寺宝2件、山国町の掛け軸1件です。

彫刻は152件で、木造物、石造物の仏像等を対象にしています。中津は初期仏教文化が栄えた地であり、山岳修験の地でもあることから、仏教関連の有形文化財が多くあります。

工芸品は3件で、山国町で「ゆりばち」「おひつ」「三方」が確認されています。

書跡・典籍は6件で、旧中津城下町の旧家の史料4件と、三光の寺院で1件、耶馬溪町で1件が確認されています。

古文書は13件で、旧中津城下町の旧家や、三光の寺院で確認されています。

考古資料は32件で、板碑や、山国町の施設等で確認された9点を含みます。

歴史資料は14件で、神社の鳥居額、棟札等です。旧中津市で1件、三光で1件、本耶馬溪町で1件、山国町で11件が確認されています。

### ②無形文化財

#### ア. 工芸技術

工芸技術としてリスト化したものは14件です。昭和60年、61年に大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館（現大分県立歴史博物館）が行った大分県の諸職調査の報告書「大分県諸職関係民俗文化財調査報告書 大分県の諸職」（1987年）に、中津市内から染物屋・傘屋・屋根師など、12の諸職が掲載されています。これ以外にも、本耶馬溪町の陶芸「耶馬溪焼き」も数えられます。また、合併前の旧山国町では2005年に「山国町の木地師」の調査報告書が刊行されています。木地師とは、広葉樹の木を用い、ろくろを用いて椀や盆等の木工品を加工・製造する職人のことですが、残念ながら、2001年頃を最後に途絶えています。

#### イ. 食文化

中津の食文化として特徴的なものを31件リストアップしましたが、全体として正確な数字は把握できていません。

中津市では豊かな山・川・海からもたらされる食材により、特色のある食文化が育まれました。中津の海ではハモやシタビラメ、ワタリガニなどが多く獲れます。特に、「ハモ料理」は専門の料理店も多く、家庭でも盛んに食べられているなど身近な存在です。山間部では家で「柚子ごしょう」を作り、調味料や薬味として用いる文化が残っているほか、川魚を使った「鮎のうるか」などの食品も残されています。米作に適さなかった山間部では「ソバ」作りが古くから行われ、その伝統で現在までソバが名物となっています。耶馬溪の「巻柿」、城下町やその周辺には醤油・みその醸造業

者や「けんちん」「ういろう」「丸ぼうろ」といった伝統的な和菓子を作る店も営業し、初盆の香典返しとして「丸ぼうろ」を配る風習も残されています。また、小祝地区では北九州市周辺で食べられる「ヌカダキ」が、山国町では日田市周辺で食べられる「タラオサ」が郷土料理として親しまれており、こうした周辺地域との物的・人的交流が盛んであったことを今に伝えています。

また、戦後、多くの養鶏場があったことなどから、現在でも市内に約40店舗のからあげ専門店があり、近年では「中津からあげ」として全国的に知られるようになりました。



写26：ハモ料理



写27：ういろう



写28：けんちん

食文化は、地域をまたがるものが多いため、表5では市内総数のみを記載しました。

### ③民俗文化財

#### ア. 有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は98件で道祖神、石祠、狛犬等が確認されています。

これ以外に、衣食住に関する民具、農耕、漁撈、狩猟に関する民具、人の一生や信仰、年中行事、暮らしの中で使用された用具類等を収集していますが、現段階で点数・種類等把握できていないため、表5には数を反映していません。

#### イ. 無形の民俗文化財

今回の調査でリスト化した無形の民俗文化財は106件ですが、正確な数は把握できていません。その内、民謡等の唄が51件をしめます。各地域では春夏秋冬を通じてさまざまな行事が行われています。春には、地域ごとに豊作を祈願する皆作祭が行われ、田植の季節を迎えます。4月から5月にかけては、各地域で弘法大師の縁日に「おせったい」が行われ、子どもたちが堂様とよばれる地域の小堂を渡り歩いてお菓子をもらいます。<sup>かさぼこ</sup>傘鉾が練り歩く「<sup>つるいち</sup>鶴市傘鉾神事」(県無民)は中津の代表的な祭礼ですが、傘鉾は他にも「<sup>おのだて</sup>薦神社」「<sup>おのだて</sup>斧立八幡宮」「<sup>おのだて</sup>箭山神社」の祭礼にも出されるなど、当地の特色となっています。お盆の時期には、集落ごとに盆踊りが行われ、「クドキ」などとも称される地域特有の節回しに合わせて踊られます。秋になると、各地区の神社では秋祭りが行われますが、ここでは「豊前神楽」(国無民)をはじめとした神楽が奉納されるのが一般的です。収穫作業が終わると「ノロヨコイ」と呼ばれる休暇をとり、地域で食事や観光などをして慰労する風習もありました。浄土真宗寺院が多い中津では、冬にかけて報恩講が各寺院や地域単位でも行われるとともに、宇佐市の四日市別院で行われる「おとりこし」へも多くの人が参加します。

## ④記念物

## ア. 遺跡

周知遺跡に入っていない遺跡としては、旧中津市の「神戸製鋼引き込み線跡」や山国町の「旭鉦山坑口跡」のような産業遺産、旧中津市の「防空監視硝<sup>かんししょう</sup>」のような戦争遺跡が挙げられます。さらに、三光の「金色妙見窟<sup>かないろみょうけんくつ</sup>」や本耶馬溪町の「雲僂窟<sup>うんせんくつ</sup>」のような洞窟や、日田往還道の「出羽石畳<sup>いずるは</sup>」、神社寺院など、時代・分類とも様々なものを、現段階では129件把握しています。



写29：防空監視硝



写30：日田往還道の出羽石畳



写31：雲僂窟

## イ. 名勝地

名勝地としては、中津藩ゆかりの邸宅や近代産業の発展に尽くした人物の邸宅、また歴史ある料亭などにすぐれた庭園を4件把握しています。

また、文化庁の「近代の庭園・公園等に関する調査研究報告書」（2009～2011）には、公園の「一次選定事例」に「中津公園」が挙げられています。さらに、文化庁の「名勝に関する総合調査（所在調査）」（2011～2012）では、「文献等から追加した重要事例」として「英彦山」が挙げられています。

## ウ. 動物・植物・地質鉱物

希少な動植物として、動物は67件（ほ乳類7件、鳥類13件、は虫類1件、両生類5件、魚類20件、甲殻類2件、貝類4件、昆虫13件、地域生態系2件）、植物は49件を把握しています。「大分県の天然記念物（動物・植物）天然記念物緊急調査報告書」（2020）では、「国・県・地域を代表すると評価された未指定の記念物」に「鷹ノ巣山のヒノキ林」と「深耶馬溪麗谷の自然林」が挙げられています。「御澄池のハンノキ林」「耶馬溪一帯の自然林」は、環境省の特定植物群落となっています。「生物多様性保存上重要な湿地（重要湿地）」に選定されている「中津干潟」、「ベッコウトンボ」（市天然）が生息する「野依新池」などの地域は、生物の生息・生育の場であるとともに、中津の自然環境を特徴づける重要な地域です。森林や湿地、草地には、ヒロハナライシダ、ヒメコダイ、タイワンスゲなど、多様な植物が生息し、クマタカ（鳥類）やアオギス（魚類）、カブトガニ（甲殻類）をはじめ、希少な動物が多く確認されています。ホタルの群生地も多く、「NPO法人 耶馬溪ホタルの会」では生息環境の保全や幼虫の放流など、保護する取組みを行っています。また「NPO法人水辺に遊ぶ会」では、専門家と協働で「中津干潟」の動物と植物の詳細な調査※を継続し、調査成果を10年ごとにレポートとして発表しています。

地質鉱物は23件で、「大分県の天然記念物（地質鉱物）天然記念物緊急調査報告書」（2021）によると、山間部では「麗谷」「大谷溪谷」など、名勝耶馬溪指定地と重なるものが多くあります。条里地割が残る「中津扇状地の網状地」や希少生物の生息域として評価の高い「中津干潟」などは、地質としても注目すべきものです。「中津干潟」と「耶馬溪の奇岩・奇峰」は、本報告書において「ラ

ンクⅣ：日本を代表する」と評価されています。

動物・植物・地質鉱物については、地域をまたがるものが多いため、表5では市内総数のみを記載しました。

※「NPO法人水辺に遊ぶ会」が発行した「中津干潟レポート2023」（2024）によれば、掲載された生物目録において、中津干潟周辺域からは1,046種（動物932種・植物114種）の生物が記録され、そのうち生息が確認されたのが932種（動物760種・植物114種）である。全体の約28%、生息種の27%が絶滅危惧種および希少種で構成されている。ただ、動物と植物は、詳細な調査が行われている地域と、調査が及ばない地域との間で差が大きく、本計画作成にあたり、整理ができなかったことから、レポートの数値は表5の総数に反映していない。

### ⑤文化的景観

文化的景観としては、圃場整備をしないまま古代からの方形の水田が残る「沖代平野の条里景観」、明治の道路開削により現れた景勝地で旅人を迎える商店街「深耶馬商店街と一目八景」、名勝指定の巨岩を背景に棚田が連なる「山国町羽高の棚田景観」、城館と集落と水田が中世集落を彷彿とさせる「大幡城跡と賀来の集落景観」など4件をあげることができます。



写32：沖代平野の条里景観



写33：石柱群と深耶馬溪商店街の景観



写34：大幡城跡と賀来の集落景観

## ⑥伝統的建造物群

伝統的建造物群とは、周囲の環境と一帯をなして歴史的風致を形成している建物群で、価値の高いもの（文化財保護法第2条）をいいます。旧城下町の「寺町」「諸町」、旧城下町の豊後町から城下町外の蛸瀬町にかけての「豊後街道」などの町並み3件を中津市の伝統的建造物群として数えることができます。



写35：寺町



写36：諸町



写37：豊後街道

## ⑦埋蔵文化財

周知の埋蔵文化財包蔵地は318件です。大分県、中津市で作成した遺跡地図から登録された遺跡の件数を計上しています。

## ⑧その他の文化財

その他の文化財は188件で、歴史的地名9件、伝承157件、歌碑22件です。

### ア. 歴史的地名

市内には長い歴史を物語る地名（町名・小字名・通称名など）が多数残っています。地名は土地の歴史を表し、中津祇園の際に旧城下町の町名が使用されるなどコミュニティの形成にも役立っています。現在、旧城下町地名・城館地名・寺社地名・官衙地名・坪地名※・旧地形地名・旧街道地名・伝承にちなんだ地名・生業にちなんだ地名等9件の存在を確認しています。そのうち、把握ができているものは旧城下町地名と城館地名の2件です。歴史的地名は、城館地名のように地域をまたがるものが多いため、表5では市内総数のみを記載しました。

#### ア-1. 旧城下町地名

江戸時代の町割りが残る中津城下町及びその周辺には、通りごとに殿町・京町・鷹匠町など、城下の歴史を物語る町名がありますが、住民基本台帳上の住所表記※からは消えています。現在は、自治区名として60の旧町名（表6）が祭礼行事や日常生活の中で使用されています。

《表6 旧城下町及びその周辺地名》

1	下正路町	21	小堀	41	古魚町
2	角木町	22	山ノ下	42	枝町
3	北浦町	23	袋町	43	新博多町
4	浦町	24	新堀町	44	諸町
5	北新地	25	豊後町	45	新魚町
6	角木新町	26	餌指町	46	江三竹町
7	南新地	27	鷹匠町	47	上博多町
8	北堀川町	28	仲間町	48	萱津町
9	市場町	29	寺町	49	栄町
10	南堀川町	30	桜町	50	古金谷
11	船場町	31	塩町	51	森ノ丁
12	鷹部屋	32	米町	52	上ノ丁
13	北門通	33	姫路町	53	本町
14	留守居町	34	二ノ丁	54	南ノ丁
15	弓町	35	三ノ丁	55	中ノ丁
16	船頭町	36	片端町	56	東堀端
17	水主町	37	殿町	57	西堀端
18	北稻堀	38	京町	58	西ノ丁
19	南稻堀	39	古博多町	59	金谷
20	矢場町	40	船町	60	外馬場

※（例）中津市歴史博物館の住所：中津市三ノ丁1385番地→中津市1385番地

## ア-2. 城館地名

平成25(2013)年から令和3(2021)年まで行った中近世城館調査では、「館」や「丸」など、城跡に関連する地名を手掛かりに、県内最多145か所の城館跡を確認することができました。

※坪地名：条里や荘園で使われた水田の坪の呼称が現在地名として残ったもの。

## イ. 伝承

157件の伝承は、中津市政五十周年記念刊行会「ふるさとの歴史」(1979)、三光村誌刊行委員会「三光村史」(1988)、本耶馬溪町史刊行会「本耶馬溪町史」(1987)、耶馬溪町史編集委員会「耶馬溪町史」(1975)、山国町「山国町史」(2005)などに記載があるものを中心にリスト化しています。沿岸部の菅原道真漂着伝説や、沖代平野の灌漑にちなむお鶴・市太郎の人柱伝説、三光の八面山の巨石にまつわる八幡神伝説のような古代に由来を持つ伝説の他、耶馬溪町の後藤又兵衛や姫塚のような戦国時代の戦にちなんだ伝承も地域で親しまれています。中でも、山国町の毛谷村六助の伝承については、地域の方の手で「毛谷村六助資料館」がつけられ、調査研究が進められています。



写38：菅原道真漂着伝説の犬丸天満宮



写39：八幡神伝説の八面山巨石群

## ウ. 歌碑

歌碑・句碑を22件把握しています。市内には、万葉歌碑や、文豪や歌人などの著名人が訪れ歌を詠んだことを記念した歌碑が各地に点在しています。建設年代は昭和40年代、50年代のような比較的新しいものも多いですが、地域の歴史を語り、大切にされています。